



(一社)中部地質調査業協会
理事長 小川 博之

巻頭言

昨年3月29日に中部圏広域地方計画が国土交通大臣決定されました。

概要は、「世界ものづくり対流拠点-中部」を将来像と位置付け、「世界最強・最先端のものづくり産業・技術のグローバル・ハブ」「リニア効果を最大化し都市と地方の対流促進、ひとり一人が輝く中部」「南海トラフ地震などの災害に強くしなやか、環境と共生した国土」を目指し、具体的な10の取り組みが示されました。その中には、環太平洋・環日本海に拓く産業拠点形成、昇龍道プロジェクトの推進、太平洋・日本海2面活用型国土構築等が進められ、地質調査業界の活躍する場面が期待されます。

さて、昨年も日本列島では様々な災害が発生しました。その中でも4月に発生した「平成28年熊本地震」は「右横ずれ断層」型の内陸地殻内地震で、14日の前震(M6.5)、16日の本震(M7.3)と2度にわたり最大震度7が観測されたのは、現在の地震計で観測するようになってから初めてのことでした。

地震の規模は阪神・淡路大震災と同規模で、住宅の全壊・半壊が約4万棟、一部損壊が約14万棟、死傷者約3,000名、被害総額2.4~4.6兆円と甚大な被害をもたらしました。

日本には約2,000の活断層が存在しており、今回の熊本地震により改めて「活断層」が注目されたことから、今年の「土と岩」65号の特集テーマとさせて頂きました。

さらに、今まで台風の被害が少なかった東北から北海道にも台風が上陸しました。特に北海道では、観測史上初めて1週間で3つの台風が上陸し、鉄道や道路等が壊滅的打撃を受けました。

国連大学が世界171カ国を対象に自然災害に見舞われる可能性や対処能力を評価した「世界リスク報告書2016年版」によると、日本は総合順位で17位でした。自然災害に見舞われる可能性は4位でしたが、インフラ整備や対処能力、適応能力が評価され17位となったものの、先進国の中では際だって高く、自然災害大国であるかがわかります。

また、この地域では「南海トラフ巨大地震」に代表される大規模災害の発生が懸念され、多くの人々が地盤や地質の重要性を意識するようになりました。

一方、2017年度の建設関連産業の市場は、国土交通省の公共事業関係予算として、対前年比1.00の見通しで、予算要求の全体方針は、

- 1)被災地の復旧・復興を加速
- 2)国民の安全・安心の確保
- 3)生産性の向上による成長力の強化
- 4)地域の活性化と豊かな暮らしの実現

とし、ストック効果の高い公共投資により経済成長を図ると共に、必要な公共事業予算を安定的・継続的に確保する。さらには品質確保、施工時期の平準化やICTの活用等によるi-Constructionを推進するとされています。

このようなニーズに対して、我々が長年にわたり「ジオドクター」として培ってきた経験や技術により、国民が安全・安心に暮らせる国土形成や品質確保、生産性向上について、

- 1)「地質リスクマネジメント」を実施することによる効率化
- 2)リスクコミュニケーション導入による効率化
- 3)地盤情報の集積、構築並びに公表
- 4)地質関連技術者のスキルの活用

等に積極的な取り組みを提案しています。

当業界にとっても活躍する機会が広がっていくと期待するところです。

中部地質調査業協会は、平成29年2月22日の臨時総会において「任意団体」から「一般社団法人」への移行について、満場一致で決定いたしました。一般社団法人の取得は、当協会の社会的地位や認知度の更なる向上に繋がると共に、今後は幅広く社会貢献出来る団体として発展していけるものと確信しています。さらには、当業界が抱えている、現場のフォアマン、技術者の担い手不足、若者の離職等の深刻な問題解決の一助となればと考えています。

今後も、中部地質調査業協会会員59社、賛助会員11社、愛知、岐阜、三重、静岡の四支部が連携をはかり、地盤・地質の専門家として地域社会に貢献し、次世代の若者に対して、「おもしろいぞ、やり甲斐があるぞ」といえる魅力のある業界に向けて努力して参りますので、より一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

01 ▶	巻頭言	1
02 ▶	特集 活断層	3
	1) 中部地方の活断層	4
	□産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 吾妻 崇	
	2) 島弧の地殻変動と活断層地震のメカニズム	14
	□名古屋大学減災連携研究センター 鷺谷 威	
	3) ノンテクトニック断層	22
	□ノンテクトニック断層研究会・(有)風水土 永田 秀尚	
	4) 活断層調査法	27
	□(株)ダイヤコンサルタント 中平 啓二・齋藤 勝	
03 ▶	特別寄稿	
	岐阜大学工学部附属 インフラマネジメント技術研究センター	35
	□センター長 沢田 和秀	
04 ▶	平成28年度	
	中部地区における地質調査業に関する意見交換会	46
05 ▶	散文 式年遷宮記念 せんぐう館	54
	□せんぐう館 学芸員 深田一郎	
06 ▶	中部ミニフォーラム2016優秀論文	63
	1) 堆積環境の違いが沖積粘性土の地盤工学的特性に及ぼす影響	
	□中部土質試験協同組合 ○清水 亮太・坪田 邦治	
	□元西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社 栗原 則夫	
	□名古屋大学大学院 中野 正樹	
	2) バイオ浄化によるVOCsおよび油汚染土壌の修復技術の検討	
	□応用地質(株) ○浅野 裕一・沼野 浩祐	
07 ▶	常設委員会報告	68
	・ 総務委員会	
	・ 研修委員会	
	・ 広報委員会	
	・ 技術委員会	
	・ 防災委員会	
	・ 編集委員会	
	・ ホームページワーキング活動報告	
08 ▶	読者アンケート結果・読者アンケート	76
09 ▶	会員名簿	78
10 ▶	会員広告	80
11 ▶	一般社団法人移行のお知らせ	88
12 ▶	編集後記	89